

あうる

Treasure every meeting as it's chance
to happen is only once in a life time.

運動会の起源

人に見せるために行われた日本最初の運動会は、明治七年（一八七四年）、東京・築地の海軍兵学寮（後の海軍兵学校）で催された「競闘遊戯会」とされている。しかしこの「競闘遊戯会」なるものは、一度限りのイベントであった。では継続性のある日本初の「運動会」はどこで行われたかというところ、明治十一年六月一日、今の北海道大学の前身、札幌農学校の校庭で行われた「遊戯会」なのである。

北海道開拓の人材を養成するために創設された、札幌農学校。明治五年、開拓使仮学校として東京芝の増上寺内に設けられたが、明治八年七月、札幌学校と改称、翌月、東京から札幌に移った。校名を札幌農学校と改称するのは明治九年八月。名前は農学校だが、農学のほかに地質学・測量学・土木工学など、北海道の開拓にとって必要な分野の講義や、英語・心理学なども開講され、幅広い見識を有する人材の育成を目指していた。

ペンハローとブルックス

東京から移って三年、日本初の運動会といえるイベントが札幌農学校で行われた。英語では「アスレチックミーツィング」。それを「遊戯会」と訳した。農学校が警察に提出した許可願には「校前空地に於て力芸執行すべく」と書かれている。どうやらアスレチックを「力芸」と訳していたようである。

が、直前に「遊戯」に変更した。まだまだ英語をどう日本語に訳すか、揺れていた時期であった。

発案者は農学校の農業分野担当教師ブルックス（札幌黄のオリジナル玉葱を持ってきたといわれ、スケートも広めた人物）と、植物学や化学を担当していたペンハロー。特にペンハローは、この「遊戯会」が行われた明治十一年に、若干二十四歳で教頭に任命されたという、できた人物で、学生時代には、マサチューセッツ農科大学最初のスポー



日本初の運動会 札幌農学校 遊戯会云

五月下旬になると、あちこちの小学校で運動会が開かれる。この春の代表的なイベント、運動会は一いつ頃から始まったのだろうか。何と運動会の起源は、北海道大学だったのだ。明治十一年（一八七八）に札幌農学校で開催された「遊技会」がそれ。春の恒例行事として、学生だけではなく札幌市民にも大人気だったという、日本の運動会の元祖、札幌農学校の「遊戯会」のお話。



ツクラブ、ベースボール部を創設、自ら内野手として活躍したというスポーツマンでもあった。それゆえに、札幌農

学校赴任後は、学生の課外活動を奨励し、ベースボールや陸上競技を教えた。ペンハローがいたことにより、札幌農学校は、日本の大学に近代スポーツを導入するという先駆的役割も果たしていたのである。そのペンハロー、そして「ブル先生」と慕われたブルックスのアイディアで、札幌農学校一回目の運動会が催された。

競技種目

会場の「校前空地」とはどこか、諸

説あるが北一条西五丁目あたりが有力とされている。「100ヤード競争」

や「1マイル競争」などの距離走のほか、「疾走幅跳」「疾走高跳」などといったフィールド競技も行われた。また、「イモ拾い競争」「目隠し競争」などといつ、ちょっと楽しい種目や「石投げ」「玉投げ」などの団体競技もあった。のちのことではあるが、パン食い競争のルーツは、明治二十九年・第十五回大会での「食菓競争」ではないかともいわれている。

新渡戸稲造や宮部金吾、内村鑑三なども選手として活躍した札幌農学校の「遊戯会」。特に新渡戸は、かなり運動神経が良かったらしく、高跳び・幅跳びなどが得意で、いつも一等であったと伝えられている。

この「遊戯会」であるが、年を追うごとに盛大になり、札幌祭りとともに市民が待望する札幌の名物行事とまでいわれるようになった。会場には屋台が軒を連ね、応援歌を奏でる音楽隊まで登場、さらには市内の女学校が休校になるほどの超人気ぶり。来賓に招かれてもすれば、札幌の名士として箔がつく、大変名誉なことであった。「遊戯会」は、大正十一年（一九二二）まで続いた。

全国に広まる

札幌農学校の「遊戯会」は、瞬く間に道内の小・中学校に広がっていった。その後、初代文部大臣森有礼が、富国強兵の一貫として全国に運動会を奨励し、日清戦争に向けての戦意高揚策として利用されていったという。また「遊戯会」の競技記録も、明治・大正期の日本青年の体力データとして活用された。運動会は生徒の父母や家族、さらに地域の大人たちなど、学区に暮らす住民が大勢参加することで、地域の絆を強くし、明治以後の日本の国創りに大きな役割を果たした。そんな運動会も、いまは様変わりし、地域の結びつきもすっかり弱くなってしまったようである。



宇都宮庸子

さん

出会い

平成八年に、旬の野菜をリポートする機会があり、どなたか野菜の話詳しくしてくれる方がいないだろうかと探していたら、当時上川農業試験場の場長だった相馬先生を報道部の方が、「いい方がいるよ」と教えてくれました。それで会いに行ったんです。農業試験場の女関で先生にお会いしたのですけれど、ニカーッと笑われて…。まず、その笑顔に引き込まれましたね。ナスの取材だったのですが、その時に「ナスというのは大和撫子。そして誰でも添いとげられる、つまりどんな料理にもなる素晴らしい野菜なんです

す」「それでいながらこの子にはすごいパワーがあって、人間の病気を打ち負かす、秘めたものを持っているんですよ」とお話しされたのが非常に印象的で、とっても楽しかったんです。急に、店頭に並んでいるナスというただの野菜が、瓜実顔の可愛い大和撫子に見えました。衝撃的な出会いでしたね。

『野菜革命』

それからは、野菜の話になると相馬先生の所に行くようになって。そのうちSTVの偉い方が、先生の講演を聞きにきて、「非常に話が分かりやすいし、面白い。テレビに出てもらいたい」という運びになり、先生も「い

いですよ」と。その時、先生のほうから「私は女性として仕事はしません(笑)。女性を担当者にしてください。これまでも仕事をしたいことがあるので、宇都宮さんはどうでしょう」と言ってお下さったらしいんですね。それで私が『そつま博士の野菜革命』スタート時の初代担当者になったわけです。その後担当者は替わりましたが、また廻り廻って、平成十二年から最後まで、延べ四年間。今回どんな話が聞けるんだろうかと、私自身もうホント楽しくて、野菜がいとおいになりました。トマトの話聞いた翌日、野菜売り場でトマトに話しかけてしまつような親密感を先生にインプットされました。

ベジタブル&フルーツマイスター

相馬先生がもういらっしやらないから、ベジタブル&フルーツマイスターになったんです。

その理由のひとつは、先生がおっしゃっていた野菜の世界をもっと自分で勉強したいということと、やはりこの『野菜博士のおくりもの』のことが頭にありました。私みたいなものが、相馬先生から教えていただいた言葉を伝えるわけじゃないですか。それには私自身に実力と信頼がないと本が成り立ちませんから。

出版

二〇〇三年七月にガンということを経験した先生から直接聞きました。「実はちょっと病気でガンなんですよ」みたいな感じで、とっても軽くおっしゃったんです。

そしてある日、「今まで伝えてきた野菜のことを本にできないかなと考えているんだ。写真とかたくさん入れて、分かりやすい本がいいよねえ」とお話しされました。私もその時は「そつなったらいいですね」くらいでなかなか実現せず、先生も、やがてほとんどベジタブルの上だけの生活になってしまいました。

〇五年二月に先生の病室にあるパソコンにメールを送ったんです。「先生に教わって来たことは、本当に宝物です。私がまとめて先生にそれを見ていただいて本にしたい。私がまとめても

いいでしょうか。そうしたら、病室のパソコンから返事が一行だけ。「多に賛成です。一緒につくりましょう。相馬」って。でも、その一カ月後に亡くなられて…。

『野菜博士のおくりもの』

私自身、「野菜は体にいいもんだよ、すごいもんだよ」というところから入ったわけじゃなくて、「野菜って人間と同じだよ」と楽しさから入って、「国産の野菜、道産の野菜ってすばらしいんだ」「食べるって大切なんだ」と、どんどん大切なことを知っていった。私が相馬先生に習ったように、やっぱり入り口は「楽しい」から入るといいなあと思います。

何となくいいなあとか、何か共感できるなあというところから入ってもらって、じわじわと大切なことが伝わる本になれば、相馬先生に教えていただいたことが形になります。

相馬先生の贈り物は残していかなければなりません。使命ですね。『野菜博士のおくりもの』はホントに大きないろんな力と協力があつたからこそ実現できたのだと思います。

宇都宮庸子 うつみや よここ

青山学院大学文学部卒業後、札幌テレビ放送にアナウンサーとして入社。現在フリーアナウンサー。ディレクターや講師等も務めている。平成八年、取材を通じて相馬先生と出会う。その後TBS番組の「人気コーナー」そつま博士の野菜革命」を延べ四年間担当。平成十八年ベジタブル&フルーツマイスターを取得。

Dilettante 悠々人語録

「むずかしい本ではなく楽しんでもらえる野菜の本を残したい」。3年前、がんで逝った北海道の野菜博士・相馬暁先生から託された想いを単行本『野菜博士のおくりもの』に綴った宇都宮庸子さんの悠々人語録。

MY OLDIES

哀愁の 写植



森澤信夫

「写植」という言葉を耳にしなくなつて久しいが、先日ネット上でこの文字を目にした時、若き日々が蘇りしばし感傷に浸った。

出会いは三十数年前に遡る。当時活版印刷を主にした地方の小さな印刷会社で文選を担当していた。「君が一番若いから勉強してきてほしい」と言われ、よくわからないまま、単純に東京に行くことを喜んだ。

モリサワの「写植スクール」で初めて本物の「写真植字機」を見た。大型のタイプライター風のボディになにやら一面に文字が並んだガラス板がついている。ネガ状態で左右反転している文字を拾い、シャッターを切ると暗箱にセットされている感光材に露光され、それを暗室で現像して「版下」を作る。なるほど「写真」「植字」であると納得した。

森澤信夫はDTPのフォントメーカーとして知られているが、前身は写研と並ぶ写植機のメーカーである。創業者である森澤信夫は、写研の創業者石井茂吉と共に、写植機を発明・実用化した人である。この二人は協力して写植機を世に出したが、別々の道を歩むことになる。私はモリサワで手動写植を学び、後に写研で電算写植を学んだ。それぞれの良さを認めているが、同時に「肌

合い」の違いを強く感じていた。

ところで、今では文字入力は一かな漢字変換」が標準だが、当時は全文字配列しかなかった。活字は「康熙字典」の部首配列を元にしていて、和文タイプは音訓配列だったが、写植は「二寸ノ巾方式」という特異なものを採用していた。これは基本見出しを五十一に分類し覚えやすい語呂の順に並べたものだ。当時東京外語のロシア人講師が考えた、漢字を形で分類する方法と部首配列の長所を取り入れたもので種田豊馬という人の作だそう。漢字が読めなくても採字ができるすぐれた方式だった。

文字配列だけでなく、大きさの単位もメートル法を基準にするという革新性があった。DTPでも選択できる「級」という単位は送りの最小値が4分の1ミリを実現した時に考えられた。つまりQuarterの「Q」が出どころである。現在の技術水準からすれば信じがたいかもしれないが、純粋に機械的な歯車のひと山が送り可能な単位（1歯＝1Q）であったのだ。

昔話はいつまでも尽きないがそろそろ紙幅が尽きてきた。当時に思いを馳せ、そして今、周囲を見渡すと隔世の感がある。ところで私が青春時代に新しい技術に出会い、感じたあのときめきを、今の若者たちも同じように抱きながら仕事に向かっていくのだろうか……。余計なお世話かも知れぬが、団塊のオジさんはフツと気になる時がある。

(Y)

BOOK INFORMATION

一冊 ちょっと気になる 受書紹介

「夢の守り人」

上橋菜穂子・著

新潮文庫
(新潮社)

定価五五二円
(税別)

平成二十年二月一日
初版発行



子どもの頃に親しんだ物語を読み返すと、当時とは違う視点が見えてくることはないだろうか。何気なく読んでいた一文が、時を変えると俄に異なる色合いを帯びるのである。良質の児童文学にはそうした、いくつもの表情を備えたものが多い。それは感性の豊かな子どもを夢中にさせるには、相当の説得力を必要とするこの証であり、年齢を問わず読み継がれる物語の多くが児童文学

も多い。呪術や精霊という概念を取り込みつつも、主眼が日々を生きる人々から離れることはないのである。文庫最新作にあたる本書は夢がテーマの為か、ファンタジックな要素が強い点特徴的だ。前半は人の夢を糧に育つ「花」や登場人物の背景に多くの描写が割かれ、やや冗長な印象を受けるが、その礎の上にある中盤以降は、過去との対峙を描いた前作にも増して示唆に富む。

である理由も、そこにあるのだ。

『守り人シリーズ』もそうした物語の一つである。『精霊の守り人』(一九九六年、偕成社)より始まる全十冊は、主人公が三十代の女性であることもあり、当初から成人の読者が多かったという。昨年の完結を契機に文庫化が進められ、現在は第三作の本書までが刊行されている。

異世界が舞台の物語ではあるが、登場人物の抱く葛藤は極めて現実的で、現代を生きる我々に重なる部分

(S)

N響

N響が四年ぶりに 北海道公演を開催



連ねている。

近年N響は、年間五十四回の定期公演（NHKホール、サントリーホール）をはじめ、全国各地で約百二十回の演奏活動を行っている。また一九六〇年以降の定期的な外国公演、セミ・ステージ・オペラなどの企画、委嘱作品の充実、メジャー・レーベルとのCD録音など、その活動と演奏は国際的にも高い評価を得ている。

『N響』はNHK交響楽団の略称で、その歴史は一九二六年十月にプロ・オーケストラとして結成された、「新交響楽団」に遡る。その後、一九四二年四月の「日本交響楽団」の名称を経て、一九五一年八月に「NHK交響楽団」と改称された。

今日に至るまで、カラヤン、アンセルメ、カイルベルト、マタチッチなど世界一流の指揮者を次々と招聘し、歴史的な名演を残している。現在N響が擁する指揮者陣は、名誉音楽監督シャルル・デュトワ、桂冠指揮者ウラディーミル・アシュケナージ、桂冠名誉指揮者ウォルフガング・サヴァンリツシュ、名誉指揮者オットマール・スウィートナー、ホルスト・シュタイン、ヘルベルト・ブロムシュテット、正指揮者外山雄三、若杉弘と名だたる巨匠が名を

このたび、NHK北海道が放送開始八十周年記念にと、四年ぶりにN響北海道公演を開催することになった。この北海道公演を指揮するのは、N響十一年ぶりの登場となる、世界でも活躍しているドイツのハンス・ドレヴァンツ、バイオリンは、N響との共演でも好評を博している小野明子。今回の演奏曲目は、ドボルザーク／交響詩「のぼと」、モーツァルト／バイオリン協奏曲第三番ト長調K.二一六、ドボルザーク／交響曲第八番ト長調 作品八八。

この機会に、八十年を超える歴史を重ねたN響の名演奏を、肌で感じてみては。北海道での各公演は、札幌公演九月二日、函館公演九月三日、旭川公演九月五日、帯広公演九月六日、釧路公演九月七日となっている。

入場料はS席六〇〇〇円、A席五〇〇円、B席四〇〇〇円、C席三〇〇〇円（全席指定、消費税込）で、C席は売り切れ間近。チケットの販売は、札幌公演がKittaraチケットセンター、大丸プレイガイド（南一西三）、4プラプレイガイド、函館公演は函館市民会館、函館市芸術ホール、松柏堂プレイガイド、



ハンス・ドレヴァンツ

小野明子



旭川公演は大雪クリスタルホール売店、玉光堂旭川店、ヤマハミュージック旭川店、帯広公演は帯広市民文化ホール、勝毎サロン、藤丸チケットぴあ、釧路公演は釧路市民文化会館、釧路市生涯学習センター、コーチャンフォー釧路店、MOOガイド、または道内のローソンチケットで取り扱っている。詳しくは、NHK札幌放送局のホームページ（<http://www.nhk.or.jp/sapporo/>）へ。

なお、N響北海道公演のお問い合わせは、各NHK放送局またはNHK札幌放送局「N響北海道公演」係へ。

NHK札幌放送局「N響北海道公演」係
011-232-4040

（平日 午前10時～午後6時）

【自分史】

最近「自分史」をまとめておこうという方が多いと聞きます。自分の誕生から老後の現在までを記録として残しておくなら、年表風に簡潔書きでまとめておけば済むのですが、それではあまりにも味気無い。なんとか物語風に書いてみたいというのが人情かもしれません。

まずは略歴として自分のことを書き並べてみます。平行して当時の社会の出来事を併記してみよう。ここまではあたりまえなのですが、それに加

本づくりの アドバイス 2

えて自分の近所であった出来事も、思い出して併記してみてください。

例えば「〇〇商店閉店」とか「〇〇大橋完成」など、まわりの風景や町並みの変遷を文章の切り口にして書いてゆくと、独り善がりに陥りがちな自分史にも、読む人にも共感できる思い出を加えてゆくと、可能になるかもしれません。

『私が中学生になったのは〇〇大橋が完成した年でした。』などという書き出しで、郷土史的な楽しさまで広げてみてはいかがでしょうか。



■編集部から 遅くなりましたが、復刊後第2号をお届けします。今回、3面の「MY OLDIES」「愛書紹介」はそれぞれ弊社社員の写植と共に青春を歩んできた50代男性、本をこよなく愛している30代女性が担当。悠々人語録では「野菜博士のおくりもの」発行にご尽力された宇都宮さんを紹介。野菜博士こと故相馬晴先生が伝えて続けた、野菜のすてき、すばらしさを教くれる1冊です。テレビ、新聞で紹介された後、多くの方からお問い合わせを頂きました。電話の向こうで感極まった言葉を語らせる方もいました。多くのお言葉に感動をいただきました。

●発行・編集／中西出版あうる編集部
〒007-0823 札幌市東区東雁来3条1丁目1-34
TEL (011) 785-0737 FAX (011) 781-7516
URL : <http://owl-online.jp>
E-mail : owl@nakanishi-shuppan.co.jp

●発行責任者／林下英二

●発行日／2008年5月31日 ●デザイン／上野修一



ホームページへ
アクセス！